

第 33 回 かたの環境を考える委員会

概要

- ・日時：2012年2月7日（火）18:30～21:30
- ・場所：交野市役所 本館3階第一委員会室
- ・テーマ：作業チームに分かれての準備作業、ほか



進行・内容

(18:00-18:20 新しい仲間のオリエンテーション)

18:30 交野市環境保全課長より開会の挨拶。

18:35 全体ガイダンスと本日の議題確認、ロードマップの確認、新しく委員会に参加された方の自己紹介をおこなった。

18:40 パブリックコメントについて、現在までに出されている意見を紹介し、各グループで検討することになった。

(自然環境保全分野)

- ・ ナラ枯れの問題を盛り込んだほうがいいのか。

(まちづくり分野)

- ・ 「自転車の似合うまち・かたの」の中で、自動車の保有台数を減らすとあるが、保有台数にこだわらなくてもいいのではないか。
- ・ 「地域ぐるみエコで子育て・親育て」は環境教育の側面があるので、エコ生活分野に入るのではないか？

次に、修正が必要だと思われるプロジェクトについて環境保全課より説明があった。

1. 「とかいなかで農業を！」(まちづくりプロジェクト)について

- ・ 農業が前面に出ているので、農業施策部門で実施することになるのではないかと。初めに環境の側面があって、その次に農業の側面が出ていればいいと思う。
- ・ 評価基準で、遊休農地面積が平成23年度の半分になるという数値目標は厳しいのではないかと。

2. 「誰もが利用しやすいバスを走らそう！」(まちづくりプロジェクト)について

・ ゆうゆうバスは、福祉目的に使用されているものなので、ゆうゆうバスを前面に出すのは厳しいのではないかと。ゆうゆうバスを廃止して、コミュニティバスを推進するのという意味合いにもとれてしまう。また、車を減らすという意味で、CO₂削減を前に出すべきだと思う。

3. 「生ごみ堆肥化を元に農産物販売アップ」(エコ生活プロジェクト)について

- ・ 農産物の販売アップが目立っており、産業振興の側面が立ちすぎていると思う。

19:00 生駒市視察報告を各作業チームの委員より行い、その後、質疑応答をおこなった。

<先行プロジェクトチーム>

- ・ 生駒市では、プロジェクトの企画や実施は、市民が主体となって動かしている。行政は、実施のPRなど広報面をサポートしている。内容は市民委員が考え、市がサポートする体制だ。

- ・ 生駒市では、平成 21 年の 3 月に策定委員会を終え、7 ヶ月かけて推進組織の設立となった。環境イベントに参加して PR したり、メンバーを増やすために講座を開催したりしながら、推進組織の周知をした。
- ・ プロジェクトは、イベント系のものは比較的早くに動いているが、情報提供や仕組みづくりのプロジェクトは動きにくいようだ。
- ・ 活動資金は、ほとんどは市の補助金だが、エコドライブの講習費用やトイレットペーパーの販売などからも資金を得ている。
- ・ 他の NPO と連携をとったり、他のイベントに参加したりして PR した方がいいと感じた。
- ・ 環境政策課の隣に事務スペースがあり、会議室も市役所内の会議室を借りている。いつでも集まれる場所があるので、プロジェクトも進めやすいと思う。
- ・ 次世代の子どもたちが楽しめるような企画を実施していくことも必要だと思う。
- ・ 共通プロジェクトを実施して、環境基本計画の推進に関わる人を増やそうとしていた。また、無作為抽出でダイレクトメールを 1000 人に送っていた。



<組織づくりチーム>

- ・ 平成 21 年の 1 月から 3 月の会議のなかで、推進組織をどんな組織にして、会則はどうするのかについて話し合い、連絡網などをつくった。また、新たに参加を呼びかける人をリストアップし、推進組織設立準備会のあり方を議論した。並行して、先行プロジェクトも実施している。
- ・ まとまった意見をもとに 5 月に設立準備会を設立して、運営委員を各部会から 3 人ずつ選出し、会の運営に当たった。
- ・ 6 月後半から具体的に検討する段階に入った。会員は正会員と賛助会員を設けており、正会員は議決権を有している。推進組織は代表と副代表が選出されており、運営委員は各部会の代表が集まっている。推進組織の全体に関わることを話し合う「本会」、プロジェクトの実施に関することを話し合う「部会」、各部会間の調整をおこなう「運営委員会」がある。
- ・ 4 つの部会を超えて全体で取り組むプロジェクトがある。
- ・ 推進組織を立ち上げるまでの議論は、全員一致の原則を貫いて、とことん話し合っていて決めている。
- ・ 今後、推進組織のメンバーが集まるのかは不安だが、どこまでが市の主導で、市民はどこまで関わっていくのかを考えないといけないと思う。生駒のやり方にとらわれることなく、交野は独自で考えていきたい。



<計画書作成と PR チーム>

- ・ 生駒市の計画書冊子の概要版は、PR 用に 6 万部作成し（世帯用：4 万、公共施設：2 万）、広報誌と共に全世帯に配布した。
- ・ PR の方法は、イベントや人が集まる機会をつかって、ロビーで展示したり会員を募集したりした。

- ・ 各部会から集まって企画、実施した講座に参加して、推進メンバーになった人もいる。推進組織が設立された後は、広報チームをつくり、各部会から1人ずつ選出し、毎月のニュースを発行するなどの作業をしている。
- ・ PR スペースとしては、事務所の前にパンフレット等を並べる他、生駒市の広報誌に環境基本計画の枠があるので、そこで毎月発信をしている。
- ・ 計画書作成・PR チームのメンバーの感想として、「推進メンバーが100人いるのは多いと思う」、「ダイレクトメールのやり方は変わっている」、「規約が明確につくられていた」、「交野も生駒も天の川でつながっているのだから、天の川サミットみたいなものをして交流するのもいいのではないか」という意見が出た。



(保全課より連絡)

- ・ 生駒市の担当者から、視察の感想がほしいと依頼がきている。200～300字程度にまとめて、エコネット生駒の広報誌に掲載される。締め切り：2月17日

19:20 推進組織のあり方について考えた。

1) 市としての方針について、環境保全課より説明した。

- ・ 環境基本計画にも書いているが、市と市民の協働で進めていきたい。かしこまらずに、個人に負担がかからないように実施したい。メインの担当が抜けてもできるように、それぞれができることをおこない、助け合って進めていきたい。
- ・ 交野では推進組織専門の活動部屋を確保するのは難しいが、市民活動ルームやボランティアセンターなどを活用していただきたい。
- ・ 予算面は、来年度は個別事業の予算を取るの難しい。平成25年度をめざして、平成24年度の秋ごろに予算要求をしていければと思う。
- ・ 委員のみなさんにはこの3月で計画づくりが終わったあとも、4月から推進組織の核となって活躍していただきたいと思う。

(出された意見は以下のとおり)

Q1. 先行プロジェクトをする場合の予算はどうなるのか？

A1. 環境保全課の予算として出す。ひとつの事業に対する具体的な予算としてはとっていないが、環境学習関係の会場代、講師代、啓発代、宣伝代を予算要求している。

Q2. 事務所がなければ、推進組織宛に電話がかかった場合、どうするのか？

A2. 当面は、環境保全課で受ける。将来的には、市役所内で、電話があり推進組織や部会が集まれる場所の設置はありえると思う。

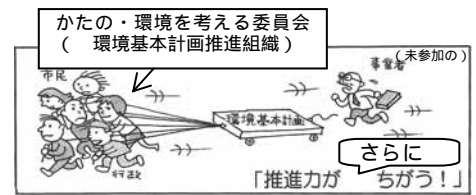
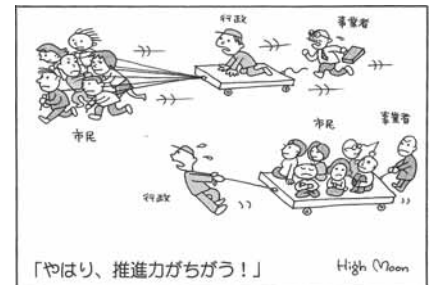
Q3. 現在は、環境市民がコーディネートしているが、来年度からは誰が中心になって盛り上げていくのか？ 役割分担のイメージができていない。

A3. 来年度に入ってからすぐに組織ができるとは思っていないが、組織はメンバーが核となって考えていくべきことだ。コーディネートの力が必要であれば外部の力も借りることも考える(環境保全課)。

生駒市での場合は、策定まで環境市民が関わったが、委員会の最後のあたりでは、会議の進行も行政と委員にお任せしていた。策定終了後の4月以降も毎月参加しているが、コーディネートはしていない。当日の議題のなかで、事例などのアドバイスを求められたときには発言をしている。その日の委員会で何を議論するのかについては、委員と行政で議論して決定している。（環境市民）

2) 市民と市との協働での組織運営について、環境市民から説明があった。

- どんな推進組織がいいのか、交野のやり方を考えてほしい。
- よくあるまちづくりの類型としては、市民ばかりが頑張っていて、行政は動いていない例や、行政は頑張っているのに、市民が動かない例もある。市、市民、地域の事業者も入って一緒に動いてくれると、もっとすごい推進力になる。
- 市民、行政、事業者の得意技は違う。協働での組織運営では、市がつくって動き、市民が手伝うのではない。市民がつくって動き、市が手伝うものでもない。両者が一緒につくって動かすことが必要だ。それぞれが得意分野を生かし、互いに能力を出し合うことで、何倍もの成果を生むことができる。



- 市の得意なことは、書類作成、事務処理、団体や事業者との連携、全市的な取組などである。一方、市民の得意なことは、機動力、共感力、多彩な専門性の発揮、枠にはまらない発想などである。一緒に取り組みれば相乗効果が上がる。
- 生駒市での協働の例を示した。

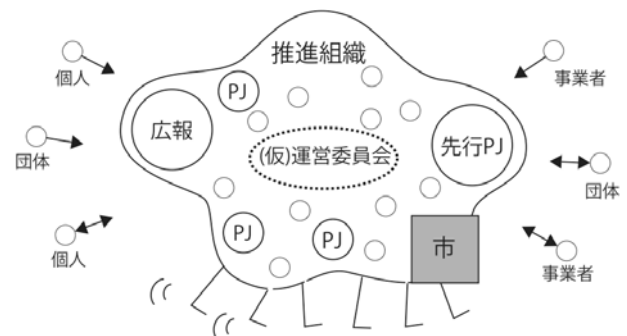
市：組織の設計（市民と共同）、規約素案（会員や会費の考え方等）の作成、参加を呼びかける団体のリストアップ、趣意書（参加呼びかけ文）の作成、呼びかけ用問答集の作成、団体への訪問による参加の勧誘（市民と共同）、事務局スペースの確保、予算の獲得（他課、府、国の予算を含む）、庁内協力体制の確立、会計、会員ニュースの編集、ウェブサイト運営、事務

市民：組織の設計（市と共同）、団体への訪問による参加の勧誘（市と共同）、身近な仲間への勧誘、活動計画や方針づくり、部会およびプロジェクト運営、プロジェクトの個別事業の実施計画書作成、会員ニュース記事の企画作成、ウェブサイト掲載記事の企画作成、事務

- 「これは市がやるのが当然だ」や、「それぐらいは市民でやってもらわない」と仕事を押しつけ合うのではなく、「これは市民で担うから、これは市でお願い」「市としてこれを準備するから市民はこれを」など、できることを出し合い、どんなバランスで協働するのがいいのか、みんなで相談して、考えてつくってほしい。

3) 推進組織の構成について、環境市民より説明があった。

- 推進組織は、現在の委員、市と共に、地元の有力者、事業者、商工会、市民団体、PTAなどを巻き込んでいく必要がある。
- 3月までは、3つの作業チームに分かれて準備をすすめていき、4月までに、推進組織をどうするかについて考えて

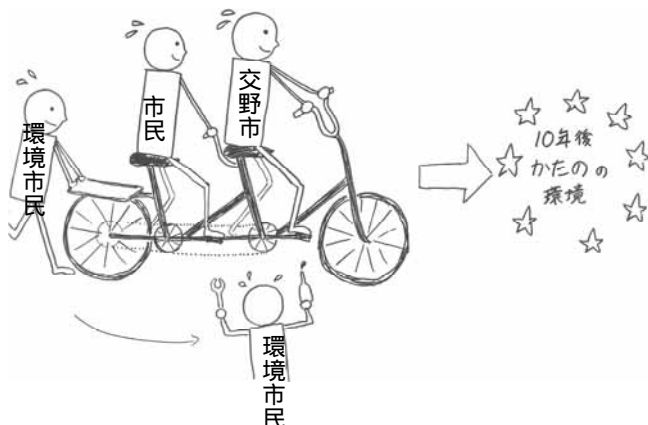


おきたい。4月以降は、推進組織の設立準備会をつくっていききたい。

- ・ 推進組織ができるまでのスケジュール案を提示。2012年中に推進組織ができればいいと思う。

4) 環境市民の立ち位置について、環境市民より説明があった。

- ・ 環境基本計画を推進するには市と市民の二人三脚で進んでほしい。現在、環境市民は後押しをする立場にいるが、次第に横から応援する立場になる。



20:00 三つの作業チームについて、説明をおこなった。

先行プロジェクトチーム：環境基本計画を推進するため、たくさんの人を集めるため、全員ですすめる共同のプロジェクトをすすめる。

組織づくりチーム：交野の推進組織の基本設計を考える。

計画書作成・PRチーム：3月までは冊子をつくる作業、その後、つくったものをどんなふうにPRするのかについて考える。

20:05 先行プロジェクトチーム、組織づくりチーム、計画書作成・PRチームに分かれて、打合せをおこなった。

20:30 計画書作成・PRチームからの発表をおこない、全体で相談、確認をおこなった。

- ・ 計画書は3月15日までに編集作業を完了させて、印刷にかける。
- ・ 計画書の内容・構成については、市と環境市民から構成案が出ている。
- ・ 計画書は500部、概要版は1000部つくる。
- ・ 計画書内で使われている、環境に関する用語集の用語をリストアップをする。
- ・ 各分野の掲載順は、自然分野 エコ生活分野 エネルギー分野 まちづくり分野の順番にする。
- ・ 概要版の構成案は越智委員が担当する。
- ・ 計画書に掲載する策定委員会からのメッセージの執筆
- ・ 委員のみなさんからの一言メッセージ(70~80字)を掲載するので、次回までに各自、考えてきてほしい。
- ・ 各プロジェクトのページに掲載する図や写真について、グループで相談して決めてほしい。

20:45 グループワーク

プロジェクト順序・期間検討、計画書掲載図表検討、プロジェクト修正等

21:25 次回までの宿題の確認等、事務連絡をおこなった。

21:30 終了

作業チーム議論の詳細

【先行プロジェクトチーム】

1. 本日のテーマ

先行プロジェクトの共通認識について



2. 議論内容

- ・前段の作業チーム全体に関する説明にあったように、このチームは、プロジェクト推進の担い手育成のためのチームであることを確認。
- ・各グループで最初にやるプロジェクトを紹介。
エネルギー：「星のまちエコドライブ」、エコ生活：「めざせ！かたのエコ達人」
まちづくり：「自転車のマナー向上大作戦」、自然環境保全：「里山を知ろう・里山大好きプロジェクト」
- ・生駒では、全分野にまたがる共通プロジェクトとして、人集めや担い手づくりを目的とした「生駒環境市民養成講座」を先行して企画し、推進組織立ち上げ後、速やかに実施できる体制をとっていた。

3. 決定事項

- ・人集めや担い手作りのプロジェクト(環境学習講座のようなもの)から取り組んでいくことが必要。

4. 次回の予定

- ・先行プロジェクトの共通認識について押さえなおす。
- ・全プロジェクトの中から講座に必要な内容を洗い出す。

【組織づくりチーム】

1. 本日のテーマ

組織づくりチームの役割について



2. 確認事項

- ・チームの目的は、具体的な推進組織のあり方を考え、基本的な設計図を作ること。
- ・作業内容：他のまちの事例を調査して、交野にふさわしい形を考える。
必要に応じて、野洲市や豊中市など他市への視察も企画を立てる。
計画の推進に関わっていただきたい方々のリストアップ。
立ち上げ時期の設定、そのための段取りなどのスケジュールの設定
4月から委員会に代わり新しく動ける体制を考える。

4. 次回の予定

推進組織のイメージについて、意見交換をする。

【計画書作成・PR チーム】

1. 本日のテーマ

- (1) 計画書作成・PR チームのすること
- (2) 計画書について



2. 議論内容・決定事項

(1) 計画書作成・PR チームのすること

- 1) 3月までに計画書の作成と、概要版を作成する。編集完了は3月15日。
- 2) 部数は計画書500部、概要版1000部を予定している。但し、PR等のために必要であれば予算の範囲内で増刷も可能。
- 3) 委員会で原稿を作成する項目

表紙、策定委員会からのメッセージ、用語集、委員とコーディネーターから一言メッセージ

(2) 計画書について

1) 構成案について説明。

(資料：交野市環境基本計画内容・構成案)

・プロジェクトの掲載順は、

自然環境保全 G エコ生活 G エネルギーG まちづくり G

- 2) 用語集のリストアップ 締切：2月20日
- 3) 表紙 締切：2月20日
- 4) 概要版 締切：2月20日
- 5) 策定委員会からのメッセージ 締切：2月20日

各担当者は、作業ができたなら締切日を待たずに、できるだけ早く送信すること。

3. グループへの連絡事項、宿題

- ・各プロジェクトのページに掲載する写真、絵、図等は2月20日の委員会で、資料作成・PRチームまで、データ等提出
- ・策定委員からの一言メッセージを次回(2月20日)までに各人70~80字考えてくる。

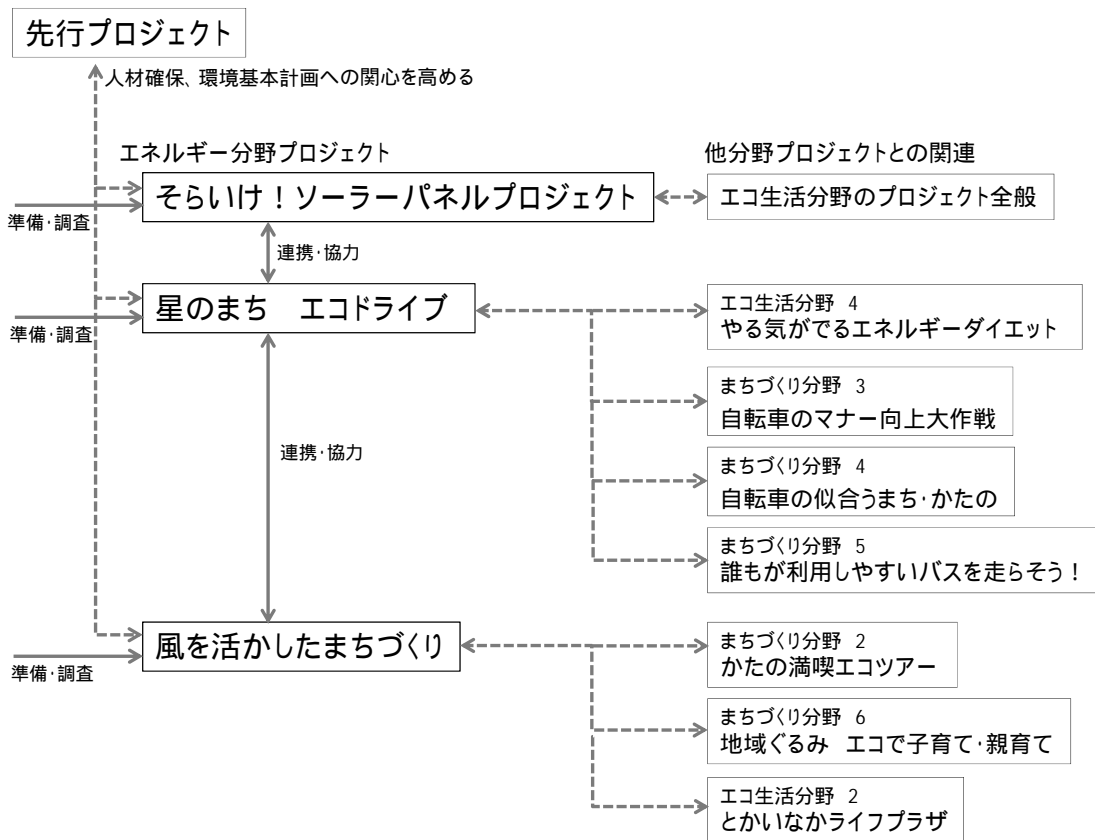
4. 次回の予定

- ・各人からの宿題提出
- ・計画書表紙について
- ・用語集について
- ・概要版について

グループ議論の詳細

【エネルギーグループ】

1. プロジェクトの展開順（計画書での表現）



2. 計画書で各プロジェクトに補足で掲載する図表について

・ そらいけ！ソーラーパネルプロジェクト

交野市内での太陽光発電機の普及データ

関西電力との電力買取契約数（発電容量）と、購入電力量（ただし自家消費分は把握できない。）

自宅での太陽光発電データ（グラフ）と写真。

ゆうゆうセンターの設置例の写真。

・ 星のまち エコドライブ

エコドライブ講習の光景写真や効果を表すデータ（グラフ）を用意。

・ 風を活かしたまちづくり

涼みどころの例を示す写真。

【エコ生活グループ】

1. プロジェクトへの意見を受けて、「生ごみ堆肥化を元に農産物販売アップ」プロジェクトを検討

プロジェクトへの意見では、農産物販売が目立っていて、産業振興の側面が立つという意見が出たため、プロジェクトの修正をおこなった。

(出された意見)

・タイトルは、農産物販売に目がいってしまうので、堆肥を前面に押し出すタイトルに変更してはどうか？

・農産物アップは、付随的なものだ。ごみの焼却量を減らすことによって CO2 を減らすことが目的だ。派生的に書いてみればどうか。

・資源の循環を考えるとという点では理にかなっていると思う。

・循環の中には、フードマイレージの考え方も入っている。産業振興が目立つということであれば、表現を変えて誤解のないようにしたい。

・目的の表現も、資源化することが目的になっている。

(結論)

タイトルを変更

旧：「生ごみ堆肥を元に農産物販売アップ」

改：「生ごみを堆肥化しよう」

目的を以下に変更

旧：・生ごみの焼却量を減らし、堆肥にして資源化する。

・将来的には、堆肥を交野の農業に活用し、栽培した農産物の販売をおこなうことによって交野市内の資源の循環をめざす。

改：・生ごみの排出量を減らすことにより、ごみの焼却量を減らす。

・どうしても出た生ごみは堆肥化する

活動内容の修正

第3段階2)の2段落目、「将来的には・・・」を以下に改定

改：将来的には、生ごみからつくられた堆肥を活用し、資源の循環をめざす。

2. 計画書に掲載する図表等の検討

7つのプロジェクトのうち、図や写真を掲載するプロジェクトを5つ選び、準備の担当を決めた。

やる気の出るエネルギーダイエット：環境家計簿等

生ごみ堆肥化：焼却場の写真、ごみ処理基本計画に乗っている全体のごみの量における生ごみの量、一人当たりのごみ排出量が少ないグラフ等

売ってエコ買ってエコ：エコバックやマイボトルの写真、将来的に店の量り売りをしているイメージ等

めざせ！かたのエコ達人：講座風景の写真等

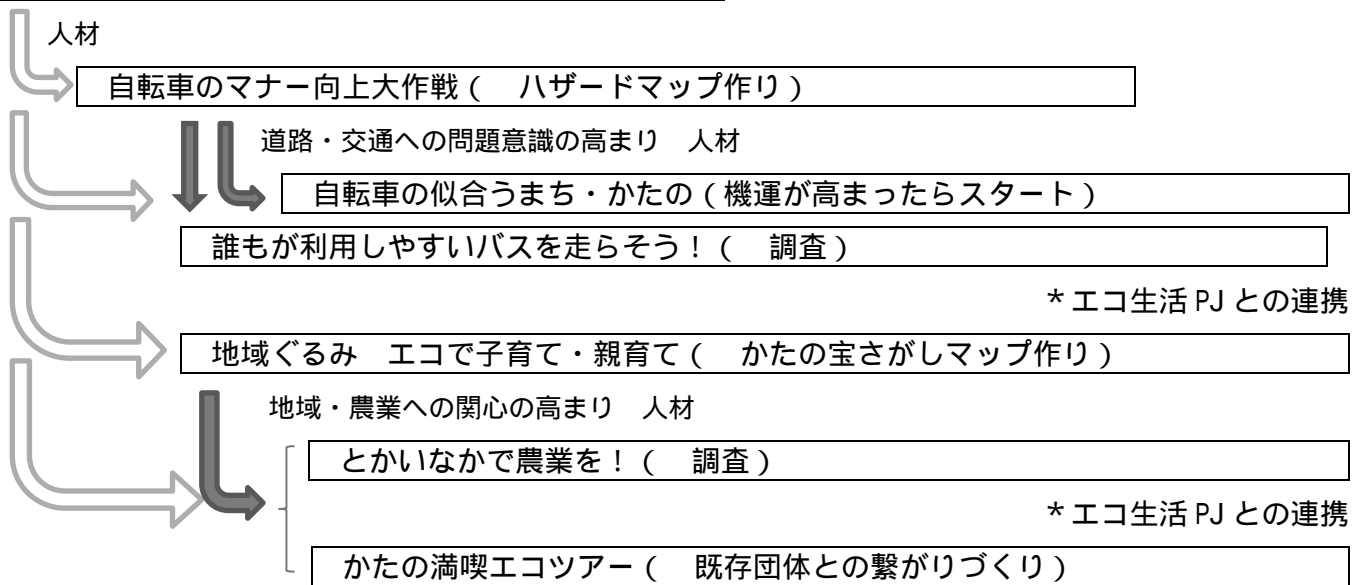
とかいなかライフプラザ

- ・ 「かたのエコ達人への道」攻略マニュアルと「かたのエコ研修センターをつくろう！」は資料なし。
- ・ 上記5つのプロジェクトに関連する写真や図表は、次回2月20日の委員会に各自が持参する。

【まちづくりグループ】

1. プロジェクト順と実施期間の設定

先行プロジェクト(プロジェクト推進の担い手育成)



2. プロジェクトの修正

「とかいなかで農業を！」について

市より指摘のあった以下の二点について議論し、文面を修正した。

- 1) 農業が前面に出ているので、農業施策部門で実施することになるのではないかと。初めに環境の側面があって、その次に農業の側面が出ていればいいと思う。
- 2) 評価基準で、遊休農地面積が平成23年度の半分になるという数値目標は厳しいのではないかと。(出された意見)
 - ・ 「農地を守ることで緑が残せる」ことや「農地の持つ自然環境保全機能」について、議論してきた内容が、プロジェクトシートの表に出てきていないので、その辺を表に出す必要がある。
 - ・ 具体的には<問題><課題>に環境を第一義とした文言を付け加えて説明したい。
 - ・ 「環境」「エコ」という言葉をはめこむ。「農業」という言葉を残すなら、「無農薬野菜」など分かり易くアピールできるような内容を盛り込んでどうか。
 - ・ 「農業」を「農地」と読み替えてはどうか。「農地」を保持するためにエコを訴える。
 - ・ プロジェクトの中身は、環境の視点から出ているものなので変える必要はないと思う。
 - ・ 「農業」という言葉、「業」にひっかかりがあるのでは？

- ・「農業」とは「業」なりわいであり、「農地」というのは個人のものなのに、市が「活用する」などと言ってもいいのかということのようだ。
- ・その個人のものを保持していけない状況にある。そこに行政や関心ある市民が手を貸すという思いであることを説明する必要がある。
- ・「農業」というのはおこがましいが、市民が土の温かさに触れ、自然を大切にすることを育みながら、いつの間にか農地が守られていた、交野の環境が保全できたという結果につながる様な取り組みになればいいということだ。
- ・市民農園的な発想で遊休農地を守っていくという考え方。
- ・みどりの基本計画にもうたわれている「田園空間」、「営農環境」という捉え方で、景観的な側面から説明してはどうだろう。
- ・評価基準の問題は、庁内的な調整不足が非常に指摘されたところで、担当部署から「そんなにはっきり言えないだろう」と言われてしまった。
- ・「遊休農地面積をできるだけ減らす」「年々減っていく」「毎年少しでも減らす」など、関係部署も納得しやすい形に変える方向で。

(結論)

- <問題>：観光資源（農地、山林、景観、歴史、文化等）が活かされていない。農業が衰退している。
大きな環境保全機能を有する地域の自然資源（農地、山林、景観等）が活かされず、衰退している。
- <課題>：環境を大切に考えた観光をもっと活発にし、環境のまちづくりにつなげていく。地域の自然資源を守り活かすため、田園空間を保全・創生する。
- <評価の基準>：プロジェクト開始以降、遊休農地面積が年々減っている。

次回予定

- ・パブリックコメントを受けて、プロジェクト修正のつづき（バスほか）
- ・計画書のプロジェクト紹介を補完する写真や図表・イラストの決定。
宿題：下記、担当プロジェクトについて、文章を補完するイメージ写真やデータの図表・グラフ、イラストなどを用意する。中間〆切は2月14日。

【自然環境保全グループ】

1.新しいメンバーの紹介

今回から、中間発表会に参加された2名が自然環境保全グループの仲間に加わったことを紹介した。

2.プロジェクトの修正

二つのプロジェクトの内容について、精査した。

- (1) 「里山を知ろう、里山大好きプロジェクト」

1) 「主体」「対象」

この欄に、「学校」を入れるのはいいのかという問題提起があり、議論をした。倉治の小学校で里山活動を行っている例もある、また調査研究には専門性を持った人が必要であり学校機関の協力が必要である場合もあるので、主体および対象には現行どおり学校を入れることとする。

2) 「問題」

「山が荒れている」は、それだけでは意味がわからないのではないかと、という問題提起があり、議論をした。議論の当初は問題点として「森林が整備されていない」「竹藪が放置されている」などの細かい項目が出ていたが、問題点を整理する過程においてその表現が消えていることを確認し、次回までにどのように掲載すればわかりやすいかを各自で考えてくることにした。

3) 「波及的効果」

「自然災害に強い地域になる」は、このプロジェクトではそこまでの効果は期待できないため、削除する。

(2) 「実践！里山保全活動」

1) 「主体」「対象」

このプロジェクトは体験活動や教育活動の範囲を超えるため、「学校」は削除する。

2) 第2段階の3

「里山保全活動に必要な仕組みをつくる。例：間伐した木や竹等の利用、たけのこの販売等」について、表現が適切かどうか議論した。

(出された意見)

- ・「仕組みをつくる」と書いた場合、つくることができれば で、つくれなければ×という評価になってしまう。「仕組みを検討する」と表現を和らげられないか。
- ・「資金をつくる」ようなことが本当にできるのか。無理だと感じられる。
- ・それで儲けようという話ではなく、放置されているものが少しでもお金を生み出し活動に回すことができればよいという発想である。
- ・「たけのこの販売等」は「たけのこ掘り等」にしてはどうか。
- ・「炭焼き」などは入らないか。

(結論)

次回に決定するので、各自で表現を考えてくる。

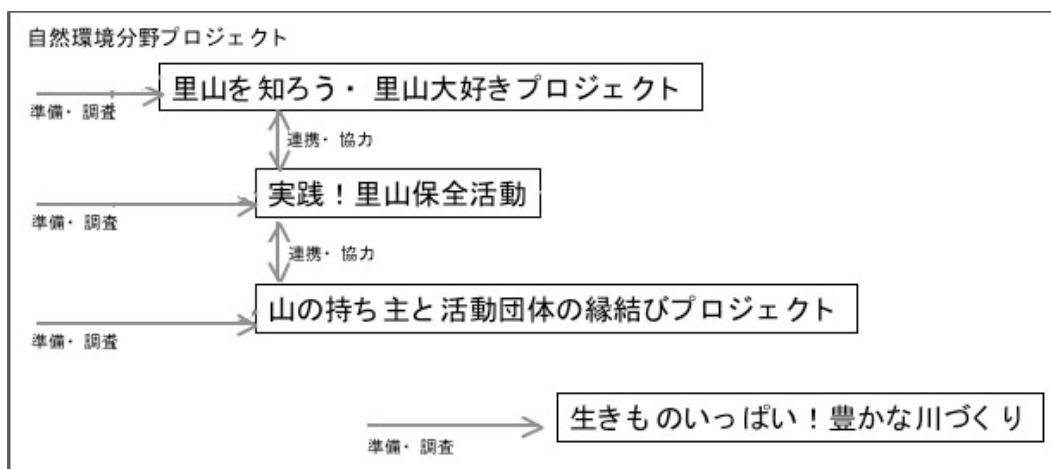
3. 計画書に掲載する図表の検討

委員が準備・整理した写真やイラストを見て、どの写真を載せたいか検討した。現在足りない、森林での活動や川で遊んでいる風景などの写真を準備する。検討時間が足りなかったため、これは載せたいという希望があれば各自が委員にお伝えすることとした。

4. プロジェクト順と実施期間の設定

前回の決定事項をもとに、図解したもので確認をした。

(里山保全のプロジェクトのうち、まず「里山を知ろう・里山大好きプロジェクト」から始める。進行状況に応じて、「実践！里山保全活動」と「山の持ち主と活動団体の縁結びプロジェクト」をからめつつ進めていく。「生きものいっぱい！豊かな川づくり」は、里山保全のプロジェクトが軌道に乗り余裕が生まれた時点で始める)



宿題：

- ・ 里山保全の三つのプロジェクトの「問題」について、現状のものに変わる案を考えてくること。
- ・ 「実践！里山保全活動」プロジェクトの第2段階の3について、現状のものに変わる案を考えてくること。
- ・ 計画書に掲載する写真等について、希望を代永委員に伝えること。

次回の予定：

- ・ 今回は議論できなかった残り二つのプロジェクト「山の持ち主と活動団体の縁結びプロジェクト」「生きものいっぱい！豊かな川づくり」について議論する。
- ・ 計画書に掲載する図表を確定させる。

以上